

## 東芝のスマートコミュニティセンター

Commencement of Operation of Toshiba's Smart Community Center

## 巻頭言

## スマートシティの実現に向けて

Toward Realization of a Smart City

環境問題やエネルギー問題などへの関心がグローバルレベルで高まりを見せるなか、東日本大震災を契機として、安定的かつ自立的なエネルギーインフラづくりが求められております。また、超高齢化・人口減少社会を見据え、エネルギーなど限られた資源を賢く使いながら、誰もが暮らしやすい都市環境づくりも必要となっております。

川崎市は、この間、新総合計画「川崎再生フロンティアプラン」の着実な推進により、川崎の持つ特徴と強みを生かしたまちづくりを進めているところでございます。こうした状況を踏まえ、昨年からは、総合企画局内にスマートシティ戦略室を設置し、ICT（情報通信技術）を活用した「持続可能なスマートシティかわさき」の構築を目指して取組みを進めております。

そして、“エネルギーの最適利用による低炭素化”をはじめ、“安全・安心の確保”、“市民生活の利便性や質の向上”を基本方針とする「川崎市スマートシティ構想」の策定を進めるとともに、市内4地域において、構想をけん引するモデル事業を推進しております。

その一つである“川崎駅周辺地区”では、大規模な商業・業務施設が集積する川崎市最大の広域拠点として“既成市街地におけるスマートコミュニティの実現”を目指して昨年度から東芝と連携し、統合BEMS（Building Energy Management System）の導入など面的なエネルギーマネジメントに向けたプロジェクトを進めております。今後、こうした取組みを更に加速させるとともに、市民・利用者の安全・安心の確保など新たな分野についてもスマート化を進めるため、この10月に東芝とスマートコミュニティの実現に向けた協定を締結いたしました。

時を合わせまして、このたび東芝のスマートコミュニティ事業の中核拠点となる「スマートコミュニティセンター」も、川崎駅西口に開所されました。同センターが起点となり、魅力ある川崎駅周辺のスマートコミュニティが実現され、そして、最先端の「課題解決スマート川崎モデル」が国内外に展開されることで、地球環境問題の解決やわが国の持続的な経済成長につながることを期待しております。

瀧峠 雅介  
TAKITOGÉ Masasuke

川崎市 総合企画局長 Director General, General Planning Bureau, Kawasaki City